

1 題材名 おまつりの音楽をつくろう

2 題材の目標

くり返しを生かしてリズムパターンをつなげ、楽しいおまつりの音楽をつくる活動を通して、思いをもって簡単な音楽をつくる能力を育てる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領A表現(3)アとイを受けて設定した。本題材では、音楽を形づくっている要素のうち、リズムと反復に着目をし、おまつりの音楽を聴いたり、楽しく音遊びや音楽づくりをしたりする活動を通して、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、簡単な音楽をつくる能力を育てることをねらいとしている。

本題材では、音楽の仕組みを生かして、おまつりの音楽の音楽づくりを行う。おまつりの音楽は、我が国の伝統音楽であり、大勢が共通の拍にのって太鼓や笛を演奏することが多く、まつりを盛り上げるために重要な役割を果たしている。また、その特徴として、短いリズムパターンがくり返されてできていること、かけ声や合いの手などがくり返しを生かす要素となっておまつりらしさをひき出していることなどが上げられる。これらを生かすことで、低学年の児童が、音楽の仕組みに対して関心を持ち、楽しく音楽づくりに取り組むことができると考える。

(2) 児童について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導にあたって

本題材では、くり返しのよさを感じ、それを生かして楽しく音楽づくりに取り組めるようにしたい。そのために、体を動かしたり、かけ声をかけたり、リズムをまねしてたたいてみたりしながらおまつりの音楽を聴き、その楽しさを十分に感じ取れるようにする。また、常時活動を通してみんなで一緒に演奏して楽しむ時間を大切にする。そして、太鼓をつかってペアや個人で自由に表現したり、短いリズムをくり返し打ってみたりして、存分におまつりらしさを楽しめるような音遊びの活動も大切にする。

題材を通して、友だちの見つけたリズムやつくった音楽を聴き合う場を設けたり、ペアで工夫しながら音楽をつくるようにしたりすることで、新しい発想や工夫が生まれ、より楽しく音楽づくりに取り組めると考える。また、音楽づくりの手がかりとなるよう、前面にいくつかのリズムを掲示したり口唱歌を取り入れたりする。教師は、児童の思いや工夫を積極的に認めるとともに、音楽を形づくっている要素と関連づけることで、学びが深まっていくことをねらいたい。

4 学習指導要領とのかかわり

(1) 本題材で指導する事項 A 表現 音楽づくり ア イ

(2) 取り扱う主な音楽を形づくっている要素 リズム 反復

5 教材

日本の祭りの音楽(阿波踊りの音楽 など) 日本の太鼓の音楽(御諏訪太鼓の音楽)

6 評価規準

(1) 領域・分野と評価の観点との関連

評価の観点 領域・分野	ア)音楽への 関心・意欲・態度	イ)音楽表現の 創意工夫	ウ)音楽表現の 技能	エ)鑑賞の能力
A. 歌唱				
A. 器楽				
A. 音楽づくり	○	○	○	
B. 鑑賞				

(2) 題材の評価規準

ア)音楽への関心・意欲・態度	イ)音楽表現の創意工夫	ウ)音楽表現の技能
① おまつりの音楽の特徴やリズムの面白さに興味・関心をもち、即興的なリズムづくりや音遊びに進んで取り組もうとしている。	① いろいろなリズムやくり返しの仕方を試しながら、その面白さを感じ取り、使うリズムやくり返しの仕方について思いをもっている。 ② おまつりの音楽の特徴に着目し、自分達のおまつりの音楽を楽しくするために、くり返しを生かしてどのように工夫するかについて思いをもっている。	① 楽しくなるおまつりの音楽になるように工夫しながら、くり返しを生かして、簡単な音楽をつくっている。

7 指導と評価の計画 (全4時間)

次	時	主な学習活動 (○ねらい・学習活動)	教材	評価規準と評価の方法
一	1	○おまつりの音楽を聴いたり、自由に太鼓で遊んでみたりして、体全体でおまつりの音楽や太鼓をつかった音遊びを楽しむことができるようにする。 ・おまつりの音楽を聴いて、体を動かしたり、かけ声を言ったりしながら、おまつりの音楽の楽しさを感じ取る。 ・自由に太鼓を叩いてみたり、リズムを打ったりして、十分に太鼓をつかった音遊びを楽しむ。	・日本の祭りの音楽 ・日本の太鼓の音楽	ア① ・表情観察 ・発言内容
	2	○くり返しを使った音遊びを通して、楽しくなるリズムやくり返し方を見つけることができるようにする。 ・いろいろなリズムをくり返し打って、お気に入りのリズムを見つけたら、くり返し方を考えたりする。		イ① ・表情観察 ・発言内容 ・演奏
二	3 (本時)	○楽しいおまつりの音楽になるように、リズムやくり返し方などを工夫しながら、簡単なおまつりの音楽をつくることができるようにする。 ・ペアで太鼓を叩き、リズムを選んだり、くり返し方を相談したりしながら、工夫しておまつりの音楽をつくる。		イ② ・表情観察 ・発言内容 ・演奏
	4	○ペアでつくった音楽を発表したり、友達の音楽を聴いたりして、おまつりの音楽を楽しむことができるようにする。 ・ペアごとにつくった音楽を発表し、よさを伝え合ったり、まねしてリズムを打ってみたりして、その楽しさを体感する。		ウ① ・表情観察 ・発言内容 ・演奏


8 本時の学習 (本時 3/4)

(1) ねらい

楽しいおまつりの音楽になるように、リズムやくり返し方を工夫しながら、簡単なおまつりの音楽をつくることができるようにする。

(2) 展開

学習活動 (C 予想される児童の反応)	教師の支援	評価規準と評価の方法
<p>♥1 常時活動 (音遊び) をする。 ・くり返しをつかったおまつりリズムに挑戦!</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>	<p>・太鼓を打ちながらおまつりらしいリズムをつかった音遊びに親しむことで、楽しい授業の雰囲気づくりをする。 ・リズムや反復などの要素に気づいて活用していけるような活動にする。</p>	
<p>楽しいおまつりの音楽をつくろう ～リズム・くり返し方・(○○・△△) を工夫して～</p>		
<p>3 全体で学習の見通しをもつ。 ・もっと楽しくなるアイデアを見つける。 C: くりかえし方をどうしようかな。 C: まだ使いたいリズムがあるよ。どうやったらつかえるかな。 C: いいな。楽しそう。</p> <p>・本時の学習の流れを知る。</p>	<p>・前時の音遊びでいろいろ試していた姿や楽しいリズムがたくさん見つかったことなどを紹介してからアイデアを考えるようにして、学習への意欲が高まるようにする。 ・どのような工夫が出来るかを考え、おまつりの音楽のつくり方や、学習への見通しを持つことができるようにするために、これまでの学び (リズムやくり返し方など) をまとめて掲示しておく。</p>	
<p style="text-align: center;">めざせ! おまつり音楽づくり名人!</p> <p>① 楽しくするためのアイデアを見つけよう! ② ペアタイム ③ 友だちにしょうかいしよう! ④ ペアタイム ⑤ ふりかえりをしよう! (できた音楽を太鼓で打ってみよう。)</p>		
<p>★4 見つけたアイデアを試してみたり、自分たちのアイデアを確かめたりしながらペアでおまつりの音楽をつくる。 C: くり返し方を変えてみよう。 C: 違うリズムを入れてみよう。 C: 最後はだんだん大きくして盛り上げて終わろう。 C: 楽しいおまつりの音楽になってきた。 C: なかなか決まらないなあ。</p>	<p>・児童の思いや工夫を積極的に認め、工夫の幅が広がるような助言をしていく。 ・どう工夫をしたらいいか困っているペアには、一緒に前時に試したリズムパターンを打ったり、前面に掲示してあるリズムパターンをつかってもよいことを伝えたりする。</p>	
<p>5 ペアでつくった音楽を全体の場で紹介合う。 C: 途中までできたから、聴いてもらおうよ。 C: いいな。すてき。 C: もっと工夫できそう!</p>	<p>・様々な要素を工夫しているペアを取り上げ、次の活動に生かせるようにする。 ・くり返しのリズムのおもしろさを認めたり、合いの手や強弱などを工夫しようとしているペアがいたら、その工夫もくり返しのおもしろさを引き出していることを価値づけていくようにする。</p>	<p>イ② 表情観察 発言内容 演奏</p> <p style="text-align: right;">↓</p>

<p>6 発表で見つけた工夫を試してみたり、自分たちの工夫を確かめたりしながらペアでおまつりの音楽をつくる。 C: もっと工夫してみよう。 C: いろいろ試して楽しいね。</p> <p>7 本時の学習のふりかえりをする。 C: いろいろ試してみて、二つのリズムをくり返すと楽しいおまつりの音楽になりました。 C: 次の発表会が楽しみになりました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のアイディアを聴いて見つけた工夫を試し、自分たちのおまつりの音楽に生かしているようにする。 ・音楽づくりが進まないペアがいたら、どんな工夫がしたいか尋ね、一緒に太鼓を叩くようにする。 ・取り組みのよさや変容を取り上げるなどし、しっかりと認めることで、次時の「おまつりの音楽の発表会」への意欲を高める。 	
---	---	---

(3) 予想される児童の具体的な姿

【音楽表現の創意工夫】イ②

おまつりの音楽の特徴に着目し、自分達のおまつりの音楽を楽しくするために、くり返しを生かしてどのように工夫するかについて思いをもっている。

<p>「十分満足できる」と判断される児童の姿の具体例</p>	<p>くり返しを生かしてどのように楽しいおまつりの音楽にするか、工夫したいことが見つかり、自分達でもっと楽しくしたいという気持ちでいろいろ試したり、工夫をしたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドンドンドン・のリズムをくり返すのがいいな。最後のお休みをドコのリズムに変えて繰り返してみたらどうかな。やってみよう。(リズムの工夫) ・ドンドンドン・とドンカカドン・の2つのリズムを使いたいな。まず2つのリズムを順番にくり返してみよう。やってみたら、あまり楽しくないな。くり返し方を変えてみよう。(くり返し方の工夫)
<p>「おおむね満足できる」と判断される児童の姿の具体例</p>	<p>くり返しを生かしてどのように楽しいおまつりの音楽にするか、工夫したいことが見つかっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドンドンドン・のリズムをくり返すのが楽しいから、このリズムのくり返しをつかってつくろう。(リズムの工夫) ・ドンドンドン・とドンカカドン・の2つのリズムをつかおう。2つのリズムを順番に打つことにしよう。(くり返し方の工夫)
<p>「支援を必要とする」と判断される児童の姿の具体例と指導の手立て</p>	<p>工夫したいことが見つからず、手がとまってしまっていたり、太鼓で遊んでしまっていたりする。</p> <p>→児童が何に困っているかを尋ね助言をする。 →前時にいろいろ試してみたリズムを一緒に打ったり、前面に掲示してあるものをまねしてみたりして、活動に見通しを持つことができるようにする。</p> <p>二人の思いが一致せずに困っている。 →それぞれの思いを聞き、教師も一緒に考えたりリズムを打ってみたりする。</p>

9 授業研究の視点

本校研究仮説1：聴くこと

1つの太鼓をペアで向き合って打ち、相談しながら音楽をつくるペア活動を取り入れたことは、太鼓のリズムの面白さやペアの相手の工夫など、聴いて気がついたことを自分の音楽に取り入れていくために有効であったか。

本校研究仮説2：学び合い

題材を通して、友だちの見つけたリズムやつくった音楽を聴き合う場を設け、ペアで表現したり聴き合ったりしながら音楽をつくるようにしたことは、新しい発想や工夫が生まれ、より楽しく音楽づくりに取り組むために有効であったか。

本校研究仮説3：[共通事項]

短いリズムパターンをくり返して、楽しいおまつりの音楽をつくるようにしたことは、児童がリズムやくり返し方を工夫し、思いをもって音楽をつくるために有効であったか。